

都内における麻しん（はしか）患者の増加について

～海外渡航歴のない方にも感染が拡大しており、注意が必要です～

現在、麻しん（はしか）患者が国内外で急増し、都内においても感染事例が増加しており、今後も流行の拡大が懸念されます。

昨年は主に海外渡航歴のある方を中心に患者の発生がみられていましたが、本年2月以降、海外渡航歴のない方も含めて患者数が増加し、現時点で昨年1年間の発生件数と並びました。

都民の皆様におかれましては、感染力の強い麻しんの特徴を踏まえ、有効な予防手段である予防接種について、接種歴をご確認いただき、接種が2回未満で罹患歴がない場合は、医療機関へのご相談（抗体検査や予防接種の実施について）をお願いいたします。

【都内における発生状況】

- ・令和8年第10週（3月2日～3月8日）の報告数は9件で、現時点（3月17日12時時点）で令和8年の累計報告数は34件となっています。
- ・職場や学校における感染が疑われる事例が複数報告されています。
- ・令和8年第1週から3月17日12時までの年齢層別の患者数は、以下とおりです。
10歳未満：0人、10代：10人、20代：15人、30代：6人、
40代：2人、50代：1人、60代：0人、70歳以上：0人

<都民の皆様へ>

- 麻しんは感染力がきわめて強い感染症で、典型的には、感染すると約10～12日の潜伏期間の後に発熱や咳、鼻水といった風邪のような症状が現れ、2～3日熱が続いた後、39℃以上の高熱と全身の発疹が出現します。発症前日から周囲への感染力が生じると言われています。
- 麻しんは予防接種で防げる病気であり、ワクチン接種は個人でできる有効な予防方法です。
麻しんの定期予防接種（第1期：1歳児、第2期：小学校就学前の1年間）をまだ受けていない方は、かかりつけ医に相談し、早めに予防接種を受けましょう。
- 麻しんウイルスの感染経路は、空気感染、飛まつ感染、接触感染です。特に不特定多数の方と密閉された空間を共有する可能性がある職業の方や、麻しんの罹患歴や接種歴が確認できないなど、ご不安がある方は、医療機関に相談し、抗体検査や予防接種をご検討ください。
- 麻しんは昨年から国内での報告数が増加しており、海外渡航歴のない場合も感染が確認されています。体調が悪い場合、特に発熱している方は、外出、移動、人に会うことを控え、自宅等で療養してください。

○ 発熱や全身の発疹など麻しんを疑う症状がある場合は、医療機関にまず電話で相談してください。受診の際は、必ず事前に受診先医療機関にご連絡いただき、公共交通機関の利用を控えて、医療機関の指示に従って受診してください。

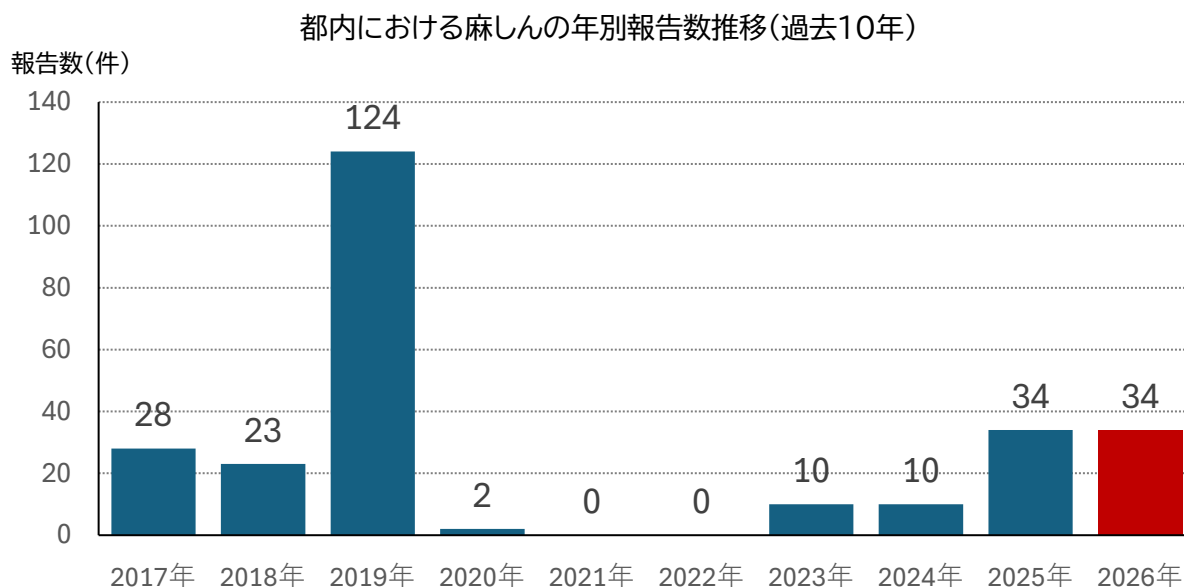
○ 麻しんは法律で報告が定められている感染症です。感染拡大防止のため、医療機関や保健所から問い合わせがあった場合、ご協力をいただきますよう、よろしくお願いいたします。

(麻しんに関する基礎知識や予防接種及び相談について、詳細はこちら➡)



【麻しんの発生状況】

- ・令和8年第10週は9件の報告がありました。
- ・令和8年3月17日12時時点で、累計報告数は34件となっています。



【問合せ先】

○本件に関すること
保健医療局感染症対策部防疫課 電話 03-5320-4088

（参考）麻しん（はしか）とは

1 麻しんとは

麻しんは、麻しんウイルスによる感染症であり、**感染症法上の五類感染症**です。

2015年に世界保健機関西太平洋事務局より日本は麻疹排除状態であると認定され、近年の国内における麻しんの発生は輸入症例を発端とするものです。

2 原因と感染経路

病原体は、麻しんウイルスです。空気感染が主たる感染経路ですが、その他に、患者の咳やくしゃみに含まれるウイルスを吸い込むことによる**飛まつ感染**、およびウイルスが付着した手で口や鼻に触れることによる**接触感染**も発生します。

発症した人が周囲に感染させる期間は、症状が出現する1日前から解熱後3日くらいまでとされています。なお、**感染力が最も強いのは発疹出現前の期間**です。

3 症状

感染力はきわめて強く、麻しんに対する免疫を持っていない人が、感染している人に接すると、**ほぼ100%の人が感染**します。感染しても発症しない不顕性感染はなく、**感染した全例で発症**します。典型的には、約10～12日間の潜伏期間の後、38℃程度の発熱及び風邪症状が2～4日続き、その後39℃以上の高熱とともに全身の発疹が出現します。主な症状は、発熱・発疹の他、咳、鼻水、目の充血などです。

また、合併症として、肺炎、中耳炎、稀に、脳炎、失明等があり、肺炎や脳炎は、重症化すると死亡することもあります。**死亡する割合は、先進国で1,000人に1人**とされています。一度感染して発症すると、ほぼ生涯にわたって免疫が持続すると言われています。

4 治療

特別な治療法は無く対症療法が行われます。感染初期であれば、緊急ワクチン・免疫グロブリンの投与により発症を防止できる可能性もあります。

5 予防のポイント

有効な予防法は、麻しん含有ワクチン接種です。接種することによって、**95%程度の人**がウイルスに対する免疫を獲得することができますと言われています。また、2回の接種を受けることでさらに多くの方が免疫を獲得することができます。

予防接種法に基づく**定期予防接種が計2回（1回目：1歳～2歳未満 2回目：小学校入学前の1年間）**行われていますので、対象者の方でまだ接種が済んでいない場合は早めの接種をお願いいたします。

令和6年度接種率 第1期（1歳児）：94.5%

第2期（小学校就学前の1年間）：90.4%

（参考）都内における麻しん患者発生状況

	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年	2025年	2026年
東京都	23	124	2	0	0	10	10	34	34
全国	279	744	10	6	6	28	45	265	100

※東京都の2026年は3月17日までの届出数

※全国の2026年は第10週（2026年3月2日～3月8日）までの累積速報値